



公益社団法人 茨城県農林振興公社
穀物改良部
〒311-4203 水戸市上国井町3118-1
TEL 029-239-6300 FAX 029-239-6880
https://www.ibanourin.or.jp

1. 令和7年度茨城県稲作・そば共進会表彰式開催

2月20日（金）、ホテル・ザ・ウエストヒルズ水戸において、茨城県・当公社共催「第69回稲作共進会及び第36回そば共進会表彰式」が、市町村穀物改良協会、農協、農業改良普及センターなど関係者61名の出席の下、開催されました。

主催者、来賓の挨拶に続き、審査長の県農業総合センター農業研究所草野謙三所長より各共進会の審査結果が報告され、その後、受賞者の表彰が行われました。

稲作共進会では、常陸太田市の高星賢治様が最優秀賞となり、特別賞として農林水産大臣賞を受賞しました。

高星賢治様は、奥久慈うまい米生産協議会常陸太田支部員として特別栽培の認証を取得し、牛ふん堆肥による土づくりと減化学肥料・減農薬栽培に取り組むとともに、2段乾燥法を導入しコシヒカリを中心とした高品質米生産に取り組んでおられます。審査会では玄米千粒重や食味値の品質等が評価され、受賞につながりました。

そば共進会では、小美玉市のライジングファーム

株式会社様が最優秀賞となり、特別賞として茨城県知事賞を受賞しました。

ライジングファーム株式会社様は、令和2年に農業事業者として法人化され、複合経営の農地所有適格法人として活動しています。耕作放棄地に農作物を栽培することにより、地域農地の荒廃防止や地域活性化に取り組まれています。また、蕎麦専用機械メーカーと連携した全国のそば店への販売や小美玉市ふるさと納税返礼品に選定され、常陸秋そばの知名度を広げておられます。審査会ではこれらの取り組みに加え、種子更新による品質維持、高い収量性等が評価され、受賞につながりました。

最後に、今回の稲作・そば共進会において、受賞された皆様におかれましては、日頃からの稲作及びそばの生産振興や品質向上、消費拡大等への取り組みや、弛まぬ努力に敬意を表するとともに、今後も地域のリーダーとして、より一層のご活躍をご期待申し上げます。

(受賞者一覧は、8ページに掲載)



審査長の県農業総合センター農業研究所
草野 謙三 所長



中央左：高星賢治 様
中央右：ライジングファーム株式会社 様

も く じ

1. 令和7年度茨城県稲作・そば共進会表彰式開催	1
2. 令和7年産水稻の作柄と8年産に向けた対策	2
3. 樹脂率低減被覆肥料を用いた水稻「にじのきらめき」向け全量基肥新肥料について	4
4. 米穀情勢について	6
5. がんばる種子生産者！（JA北つくば結城種子生産部会）	7
6. 穀物改良部ニュース	8
(1) 水陸稲種子生産委託会議を開催	
(2) 茨城県採種部会協議会視察研修を実施	
※令和7年度茨城県稲作・そば共進会受賞者名簿	

2. 令和7年産水稻の作柄と8年産に向けた対策

茨城県農業総合センター 専門技術指導員 坪井真樹

1. 令和7年産水稻の作柄

農林水産省大臣官房統計部から公表された「作物統計調査 令和7年産水陸稲の収穫量」によると、茨城県は「508kg/10a（前年差△15(kg)、対前年比97)」で、作況単収指数は98となりました。

品質面では、農林水産省公表の令和7年産米の農産物検査結果（令和7年12月31日現在）によると、茨城県の水稲うるち玄米の1等比率は54.7%となり、品種毎の1等比率では栽培面積の約7割を占める「コシヒカリ」から面積の大きい順に、①「コシヒカリ」45.3%、②「あきたこまち」67.8%、③「にじのきらめき」62.5%です。また、「にじのきらめき」以外的高温耐性品種では「ふくまる SL」80.0%、「一番星」76.4%となっています。

2. 水稻生育期間の気象と生育概況

①育苗期

4月の気温は、平年値（1991～2020（以下「平年値」は同様の30年期間））よりやや高く推移し、順調に苗の生育が進んだが、一部の苗は高温に伴う管理不具合により病気の発生や老化苗となった事例が見られました。

②移植及び活着期

田植えの進捗率は、平年（過去5年平均）と比べて、5月連休中の進捗が緩慢となっており、大規模普通作経営体における田植作業の長期化や、小規模生産者の離農に伴う田植作業の集中が無くなってきていることが反映されていました。

5月上中旬は、気温が平年値よりもやや高く推移し、日照時間は平年値並で、活着は概ね良好でした。

③分けつ期～幼穂形成期

5月下旬は、日照時間が平年値より半分程度と少なく、特に第6半旬は気温が平年値より3℃程度低く、初期分けつの確保が緩慢になりました。

6月中旬以降、気温が平年値よりも5℃程度高く推移し、移植後の低温による分けつ遅延が回復されてきた。

④出穂期～登熟・成熟期

7月第3半旬の低温により、「あきたこまち」等早生品種の出穂始め～出穂期までの期間は4～

5日程度とやや長引き、通常約5日間の出穂始め～出穂揃いが、8～9日程度かかった結果、成熟期の帯緑率の判断が困難になり（ゆっくり減っていた帯緑率が急に減る）、早生品種ではやや刈り遅れ気味となる事例が散見されました。

また、7月第5半旬、第6半旬の日照時間が平年値の約2倍となり、日射が強かった結果、その時期に登熟中期であった早生品種のうち、品種としてくさび米（黒点米とも呼ばれる）の発生しやすい「あきたこまち」において、水分供給が不十分な圃場で、くさび状の黒変部を生じた着色粒（黒点米）の発生を助長しました。

8月第3、第4半旬は、平年値に近い気温となりましたが、白未熟粒の発生を助長される、出穂期後20日間の平均気温が27℃以上という条件が、早生～中生品種の出穂期と重なり、令和7年11月30日時点の茨城県の水稲うるち玄米の1等比率は55.0%に止まっています。

定点圃場における「あきたこまち」と「コシヒ

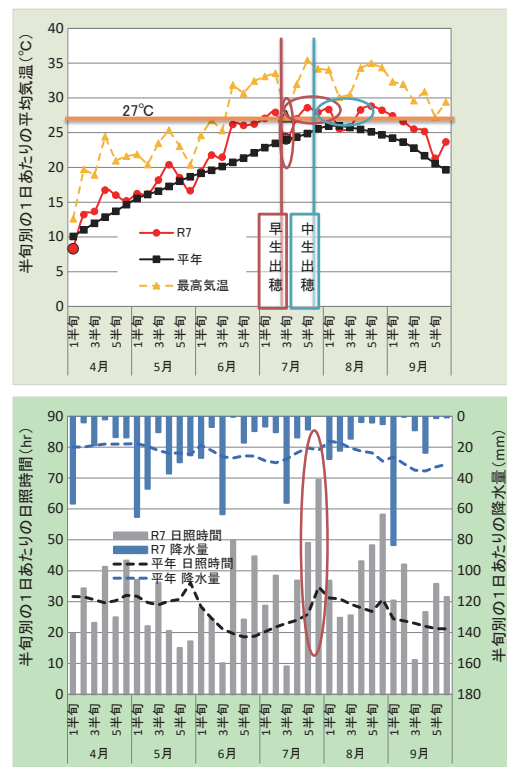


図1 令和7年度半旬別の平均気温、日照時間、降水量の推移(注)気温は、日立、水戸、龍ヶ崎、下妻、古河、鹿島、大子、常陸大宮の8地点の気象台データの平均値とした

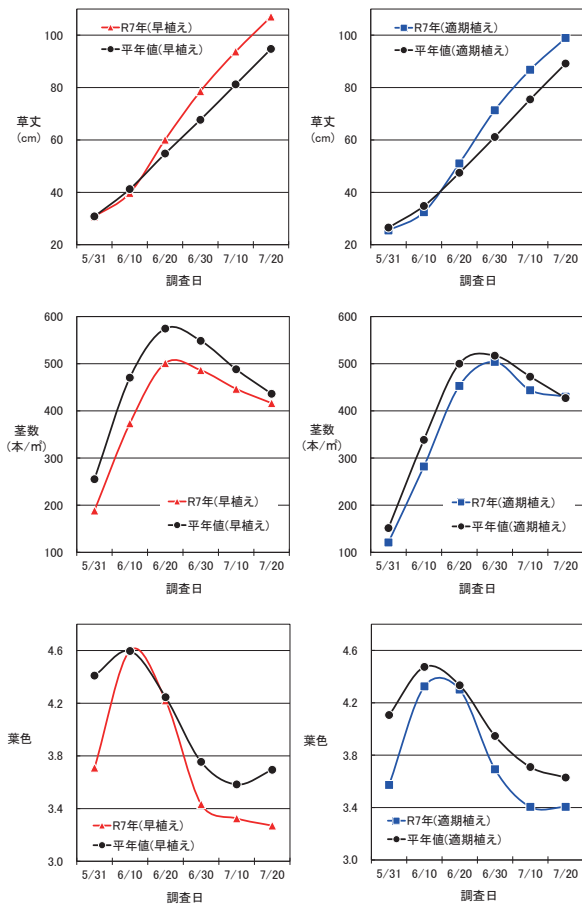


図2 コシヒカリの移植時期別生育経過(定点調査圃場の平均値)
(※早植え…4/25～5/4移植、適期植え…5/5～5/28移植)

「カリ」の生育推移を図2、図3に示します。草丈は生育中盤から平均(過去10年平均値)より1割程度高く、茎数は初期分げつが緩慢で最高分げつ期は平均より1割程度少なく推移したものの穂数は概ね平均並でした。

令和7年は葉色の推移が特徴的で、生育初期の葉色の回復が遅く、また「コシヒカリ」では幼穂形成期以降の葉色がやや淡いまま、出穂期～登熟期を迎えました。

表1 コシヒカリ定点圃場の生育・収量調査結果(平均値)

移植時期	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m)	一穂粒数 (粒)	m当たり粒数 (100粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	収量 (kg/a)	同左年比 (%)	倒伏程度 (1-5)	
県平均	R7	7/26	9/2	96.3	19.4	385	84.6	326	77.7	21.3	53.5	99	1.3
	R6	7/24	8/31	93.7	19.6	397	82.1	326	80.3	21.2	54.6	101	2.0
	R5	7/25	9/2	91.2	19.3	378	80.3	303	81.4	21.5	55.5	103	1.3
	平年値	7/28	9/5	90.8	18.8	385	81.3	313	77.8	21.2	54.1	100	1.3
早植え (5/4以前)	R7	7/24	8/31	96.3	19.2	374	85.2	318	75.2	21.3	53.3	97	1.1
	R6	7/21	8/28	92.4	19.6	399	82.8	330	82.5	21.3	56.7	103	2.2
	R5	7/23	8/30	91.9	19.1	397	79.4	316	81.8	21.4	57.0	104	1.5
	平年値	7/25	9/1	91.0	18.8	400	80.4	322	78.5	20.9	54.9	100	1.2
適期植え (5/5～20)	R7	7/28	9/3	96.1	19.4	404	84.6	342	81.4	21.4	54.4	101	1.6
	R6	7/28	9/3	95.3	19.5	394	81.3	320	77.5	21.1	52.1	97	1.9
	R5	7/27	9/4	91.2	19.7	360	81.5	293	82.2	21.9	56.0	104	1.2
	平年値	7/30	9/8	90.7	18.9	373	82.1	306	77.8	21.5	54.0	100	1.4

注) 坪刈りによる調査。平年値は過去10年間(平成27年～令和6年)の平均値
登熟歩合は1.85mm以上の粒数割合

3. 収量は平均比99

令和7年の定点圃場における「コシヒカリ」は、数値上では全ての収量構成要素(穂数・一穂粒数・登熟歩合・千粒重)が平均並であり、収量は県平均で平均比99でした。早植え(5/4以前)と適期植え(5/5～5/20)を比較すると、適期植え(5/5～5/20)では全ての収量構成要素が平均並であったのに対し、早植え(5/4以前)では、登熟歩合が平均よりやや低くなりました(表1)。

4. 白未熟粒だけでなく着色粒の被害も多い

令和7年産の玄米品質は、令和5年、令和6年に引き続き、高温による白未熟粒が多かったです。

また、斑点米カメムシ類の発生(7月上旬)が過去11年間で2番目の多い状況で、防除の不備等で、被害が集中する事例がありました。

その他、水分ストレスが発生を助長するくさび米(黒点米)や、刈り遅れで発生が増えるヤケ米などにより、着色粒の被害も多くなりました。



5. 今後の対策：高温対策としての追肥

近年の高温では、低タンパクを目指した良食味米栽培や一発肥料の肥効切れが、品質低下を助長します。下記を参考に葉色により追肥しましょう。

出穂期頃の葉色が淡いと予想される場合

↓

「コシヒカリ」では1kg/10a以内の追肥を実施

3. 樹脂率低減被覆肥料を用いた水稻「にじのきらめき」向け全量基肥新肥料について

茨城県農業総合センター 農業研究所 水田利用研究室 松崎 誠 司

既存の全量基肥肥料はプラスチック製の被覆殻に覆われており、肥料成分溶出後の被膜殻が河川へ流出することによる環境汚染が懸念されています。そのため、全農いばらきや肥料メーカーと協力し、被覆殻のプラスチック率が既存のものと比較して40%削減されたJコートを用いて、新たな「にじのきらめき」向け全量基肥肥料（以下、新肥料）の栽培試験に取り組みました。

1. 肥料成分の溶出パターン

慣行の全量基肥肥料と比較して、新肥料は幼穂形成期までの窒素溶出量が少なく、出穂前20日から出穂期の溶出量が多くなります（図1）。時期別の窒素吸収量においては、新肥料は幼穂形成期から出穂期にかけて慣行肥料よりも増加しました（表1）。

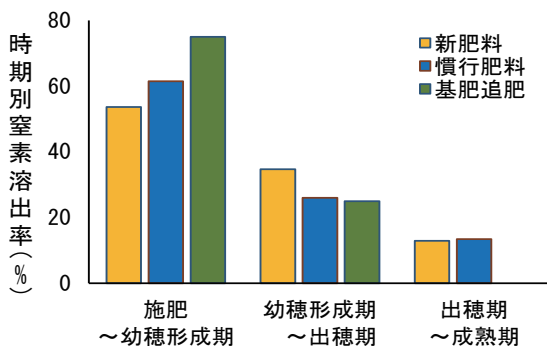


図1 各肥料時期別窒素溶出パターン(R6所内試験)

注1)シミュレーションソフトを用いて推定した。アメダス(龍ヶ崎)の日平均気温により推定した地温データを使用した。

注2)速効性窒素成分も累計窒素溶出率に含めた。

表1 各肥料の時期別窒素吸収パターン(所内試験)

試験区	幼穂形成期 (kg/10a)	出穂期 (kg/10a)	成熟期 (kg/10a)
新肥料	6.4	15.4	11.8
慣行肥料	7.3	12.6	11.6
基肥追肥	6.8	16.3	11.9

注) 幼穂形成期、出穂期、成熟期にサンプルを採取した。R5は7/5、7/31、9/13、R6は7/3、7/31、9/11

2. 生育の推移

新肥料は慣行肥料よりも生育初期の茎数が少ない傾向でしたが、幼穂形成期以降同等となります。葉色は生育初期には慣行肥料と同程度～やや淡く推移しましたが、幼穂形成期以降は慣行肥料よりも濃く推移しました（図2）。

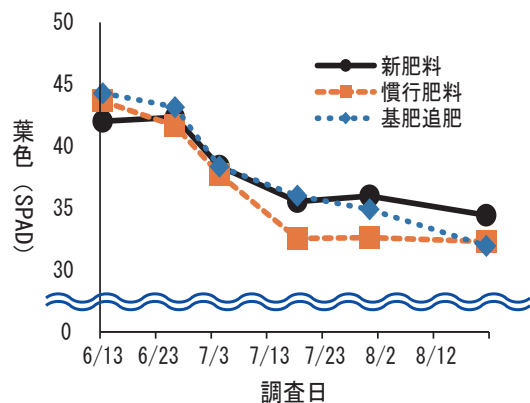
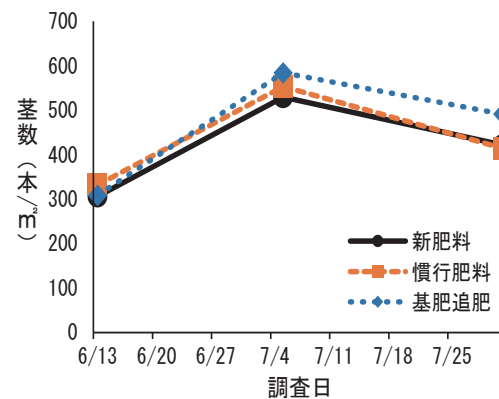
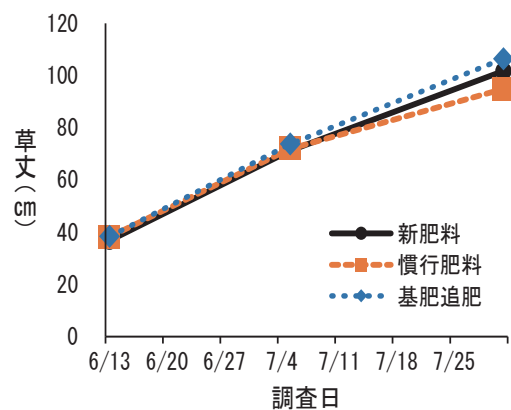


図2 生育調査結果(所内・R5～R6平均)

3. 収量及び品質

新肥料は慣行肥料よりも穂長が長く籾数がやや多くなるため収量が増大しました。検査等級は令和6年の所内試験を除き全て1等で、千粒重には差が見られませんでした。また、品質面でも慣行肥料や基肥追肥と比べて大きな違いは確認されませんでした(表2)。

4. 経営評価

「コシヒカリ」を9ha、「にじのきらめき」を9ha、飼料用米を12ha作付けする30ha規模の水稲経営体において、慣行肥料から新肥料に肥料を全量転換することで「にじのきらめき」の収量が約45kg/10a増収、粗収益が729千円向上し、経営体の所得が12%向上すると試算されました(表3)。

新肥料の成分はN-P₂O₅-K₂O:27-10-10で、慣行肥料のN-P₂O₅-K₂O:18-20-10よりも高窒素のため、施肥量を少なくできます。また、15kg/袋のため、施肥作業を軽労化できます。新肥料は令和7年度から県北、県央及び県南の一部JAにて「にじちゃん一発J」として販売されています(図3)。



図3 にじちゃん一発J

表2 収量調査結果 (R5~R6平均)

		稈長	穂長	穂数	精玄米重 ₁₎	千粒重 ₁₎	籾数	登熟歩合	検査等級	整粒歩合	玄米タンパク質含有率 ₃₎
		(cm)	(cm)	(本/m ²)	(kg/10a)	(g)	(百粒/m ²)	(%)	^{1) 2)} (等)	(%)	(%)
所内試験 (龍ヶ崎)	新肥料	73.5	21.3	405	697	23.4	346	87.0	1-2	43.4	6.3
	慣行肥料	72.2	19.8	413	641	23.6	325	84.7	1-2	43.7	6.2
	基肥追肥	74.3	21.1	470	718	23.2	377	83.6	1-2	34.7	6.2
現地試験 (筑西)	新肥料	76.7	20.9	398	707	23.4	350	85.1	1	43.9	6.2
	慣行肥料	74.7	20.1	344	669	23.5	298	89.1	1	47.8	6.4
	基肥追肥	76.8	21.6	391	710	23.5	368	86.2	1	46.1	6.0

栽培概要

栽植密度18.5株/m²

施肥窒素量 所内) 新肥料、慣行肥料 10.8kg/10a、基肥追肥 12.0kg/10a
 現地) 新肥料、慣行肥料 8.1kg/10a、基肥追肥 9.0kg/10a

1) 精玄米重、千粒重は1.85mm調整後

2) 検査等級は全農いばらき米穀部米穀総合課による

3) 玄米タンパク質含有率は米粒食味計 (S社RLTA10B) を用いた

表3 水稲30ha中9ha「にじのきらめき」を栽培している経営体における試算

供試肥料	収量 (kg/10a)			粗収益 (千円)	経費 (千円)			所得 (千円)	対慣行比
	コシヒカリ	にじの きらめき	飼料用米		肥料費	労働費	その他		
新肥料	510	702	690	33,548	2,586	180	21,763	9,019	112
慣行肥料	510	655	690	32,787	2,814	180	21,763	8,029	100
基肥追肥	510	714	690	33,743	2,540	270	21,763	9,170	114

施肥窒素量: 「コシヒカリ」9(6+3)kg/10a、「にじのきらめき」基肥追肥は13(10+3)kg/10a、「にじのきらめき」のその他は11.7kg/10a、「夢あおば」10(7+3)kg/10aで試算試作肥料および慣行肥料の「にじのきらめき」では1割減の11.7kg/10a

収量: 「コシヒカリ」は県基準収量、「夢あおば」は県基準収量+150kg/10a、「にじのきらめき」は本試験R5~6の現地所内平均値

販売単価: 「コシヒカリ」11,760円/60kg、「にじのきらめき」10,860円/60kg、「夢あおば」420円/60kg、県内JAR3~R5平均値

粗収益には水田活用直接支払交付金105,000円/10aを含む

労働費は1500円/10aとして試算 その他経費は県経営指標を参照した

経営規模の根拠として茨城県農業経営基盤の強化の促進に関する基本方針(令和5年)を参照した

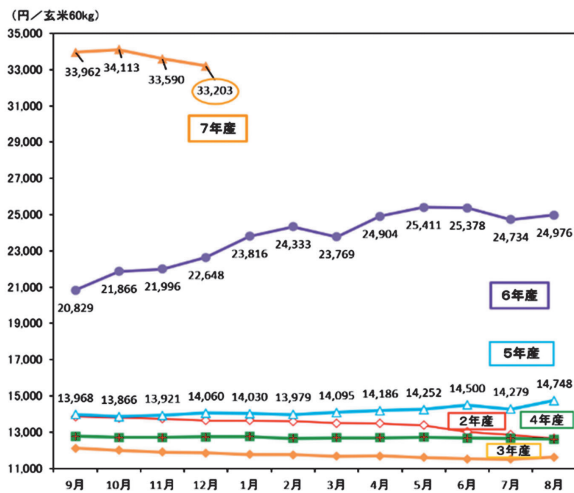
4. 米穀情勢について

全農茨城県本部 米穀部 米穀課

1. 価格の動向（図表1）

- (1) 農林水産省が公表した7年産相対販売価格（令和7年12月時点、税別・包装抜換算）は、33,203円/60kgと、前年同月と比べて+10,555円となっています。
- (2) 7年産米は9月以降下落し、直近では約21,000円～27,000円程度で取引されています。なお、市中価格は民間業者間のスポットの取引価格であり、流通量は限定的です。

【図表1】相対取引価格の推移（7年12月末）

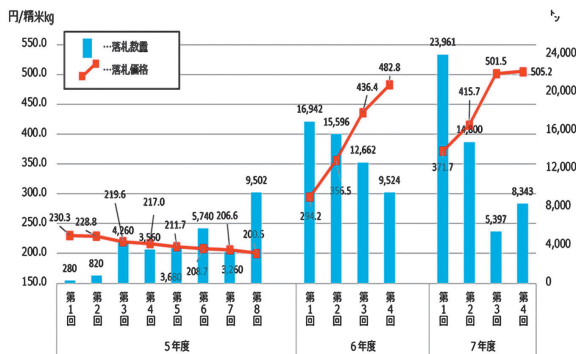


（備考）農林水産省公表相対価格にもとづき作成。包装代・消費税相当額を控除した価格。

2. 外国産米の動向（図表2）

- (1) 民間貿易による米の輸入量は、7年12月時点で累計97千ト、例年の100倍程度となっています。
- (2) 7年度のSBS入札は例年より前倒して実施され、第4回（7年11月）までに契約予定数量全量の10万トが落札されています。なお、カルローズの落札平均価格は372円～505円（港渡、精米kgあたり）となっています。

【図表2】SBS落札結果（US産うるち精米中粒種）



※US産うるち精米中粒種・港渡価格（円/kg・税抜）

3. 今後の需給見通し（図表3）

10月31日に開催された食糧部会で、主食用米等生産量が7年産で748万ト、8年産で711万トとし、8年6月末民間在庫量は215～229万ト、9年6月末在庫215万ト～245万トと示されました。

今後の需給見通しは変動要素が複数あり、①7年産生産量、②備蓄米売渡数量、③備蓄米買戻数量、④需要量（R7/8）に関しては、引き続き動向を見極める必要があります。

なお、8年産生産量711万トは7年産から▲37万ト減少となりますが、国は8年産備蓄米の政府買入れ21万トを予定しており、この数字は8年産生産量に含めておりません。

【図表3】今後の需給見通し（10月食糧部会）

		基本指針変更 (7年10月)	
R 7 / 8	7年6月末民間在庫量	A	155
	7年産主食用米等生産量	B	748
	政府米供給量	C	23 ^{※1}
	供給量計	D=A+B+C	926
	需要量	E	697～711
8年6月末民間在庫量		F=D-E	215～229
R 8 / 9	8年6月末民間在庫量	G=F	215～229
	8年産主食用米等生産量	H	711 ^{※2}
	供給量計	I=G+H	926～939
	需要量	J	694～711
	9年6月末民間在庫量	K=I-J	215～245

- ※1：政府備蓄米の放出（全体で約59万ト）を踏まえた値
- ※2：R8/9需要見通しに対して余裕をもって設定した値（農水省）

4. 高温耐性品種「にじのきらめき」について

「にじのきらめき」は、高温障害への対策品種として近年生産量が大きく伸びています。

収量面で優位性が期待される一方、本県においては一等比率が想定ほど向上しておらず、品質面に課題を抱えている状況です。

販売先からは品質について一定の評価を得ているものの、他県の主力ブランド米との競争は依然として厳しく、特に市中価格が不安定な局面では、知名度の不足も相まって、同価格帯の他銘柄との差別化が難しい状況にあります。

今後、需給の緩和が進むと見込まれる中で、市場では「品質が安定した米」への需要が一段と高まることが予想されます。

このため、産地においては「安定的な品質の確保」および「計画的な作付の実施」が、これまで以上に重要な取り組みになると考えられます。

5. がんばる種子生産者！



北つくば農業協同組合 結城種子生産部会
農事組合法人 宮崎協業 大島 諒さん

◆ 経営規模

・ 水稲	50ha
・ WCS (飼料用米)	37ha
・ 小麦	43ha (内種子15ha)
・ 大麦	26ha

◆ 主な保有機械

・ トラクター	
・ コンバイン	5台
・ 乾燥機	10台
・ 田植機	3台



トラクター



コンバイン



乾燥機

◆ 品質向上の取組

従業員全員で圃場管理できることを目指し、知識の共有を図っています。例えば、異株、病虫害等を発見した際には、全員で共有し、抜き取りや防除等の対応が行えるようにしています。

また、麦類は赤カビの適期防除が重要であるため、ドローンとハイクリブームを併用し、多雨後などに速やかに防除ができるようにしています。

今後も更なる種子の品質向上を心がけていきます。

◆ 栽培管理

麦類の採種圃場に関しては、隣接圃場からの水の浸入防止や大麦との刈分けの観点から、ブロック分けをしており、ブロックローテーションを行うことで連作障害を起こさないよう留意しています。

圃場周囲の除草作業を早めに行うことで虫の越冬場所を減らし、来作での品質・収量の向上につながるよう努めています。

各作業には大型機械を使用していることから、使用している最中に異常を起こさないよう事前に整備を行い、適期に滞りなく作業ができるようにしています。

◆ 今後の抱負

農業従事者の高齢化や、離農、新規就農者定着の難しさ、それに伴う耕作放棄地の増加など、農業全体でも佳境を迎えている所ではありますが、昨年の米価高騰によって注目が集まり、生産者の現状を見てもらえるようになってきました。

そのため、今まで以上に種子の品質向上等を目指して、関係機関との連携を進めつつ、優良種子生産に取り組んでいきたいと思っています。

6. 穀物改良部ニュース

(1) 水陸稲種子生産委託会議を開催

2月27日(金)、令和9年播種用水陸稲種子生産委託会議が開催されました。同会議では、県の水陸稲採種計画を基に種子生産計画が決定され、種子場農協へ各種子の生産が委託されました。

令和9年播種用水陸稲種子生産計画

	品種名	数量 (kg)
水稲うるち	コシヒカリ	953,000
	あきたこまち	168,000
	ふくまるSL	84,000
	ゆめひたち	5,000
	一番星	7,000
	あさひの夢	7,000
	にじのきらめき	415,000
	ひたち錦	1,100
	ミルキークイーン	37,400
	あきだわら	8,000
	その他	8,200
	水稲うるち計	1,693,700
水稲もち	マンゲツモチ	38,900
	ヒメノモチ	1,900
	水稲もち計	40,800
も陸ち稲	ひたちはたもち	1,000
	陸稲もち計	1,000
飼料用	夢あおば	25,000
	月の光	15,000
	飼料用計	40,000
合計		1,775,500

(2) 茨城県採種部会協議会視察研修を実施

1月20日(火)・21日(水)、茨城県採種部会協議会(会長:谷田部貞雄氏)による視察研修が実施され、会員等21名が参加しました。

1日目は、令和7年度より稼働開始した広域種子センターである群馬県米麦種子センター(群馬県佐波郡玉村町)を訪問しました。現地では、全農群馬県本部、群馬県米麦大豆振興協議会、JA佐波伊勢崎の担当者より、設置の経緯や運営体制について説明を受けるとともに、施設内の見学を行いました。

2日目は、(株)タイガーカワシマ(群馬県邑楽郡板倉町)を訪問し、種籾の温湯消毒技術に関する講習を受けたほか、製造ライン等の見学を行いました。



令和7年度第69回茨城県稲作共進会受賞者名簿

正賞	氏名	市町村	特別賞
最優秀賞	高星 賢治	常陸太田市	農林水産大臣賞
優秀賞	農事組合法人 小絹生産組合	つくばみらい市	茨城県知事賞
	(株)サンフレッシュ美浦	美浦村	茨城県議会議長賞
優良賞	i-farm(株)	下妻市	茨城県農業協同組合中央会会長賞
	(有)関農産	つくば市	全農茨城県本部運営委員会会長賞
奨励賞	金田 則雄	常陸太田市	
	露久保 進	大子町	
	佐藤 晃一	水戸市	
	石川 馨	笠間市	
	宮本 勝美	潮来市	
	(株)さうち農産	稲敷市	
	根本 祐輔	稲敷市	
	石毛 貴雄	かすみがうら市	
	いずみファーム(株)	つくば市	
	木村 裕一	龍ヶ崎市	
島田 智史	下妻市		

令和7年度第36回茨城県そば共進会受賞者名簿

正賞	氏名	市町村	特別賞
最優秀賞	ライジングファーム(株)	小美玉市	茨城県知事賞
優秀賞	梶間 郷士	常陸太田市	茨城県議会議長賞
優良賞	(株)要建設	水戸市	茨城県農業協同組合中央会会長賞
奨励賞	仲田 貞典	城里町	
	小林 功樹	阿見町	



【速報】 令和7年度全国そば優良生産表彰事業において、ライジングファーム株式会社様が農林水産省農産局長賞、梶間郷士様が(一社)日本麺類業団体連合会会長賞を受賞されました。